

(別紙12)

大学「地(知)の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください(様式は自由です)。

実習企業・機関	TDK 庄内株式会社
実習期間	平成 29年 2月 27日 ~ 平成 29年 3月 4日
学生氏名	工藤岬
実習プログラム	2月27日(月) ・オリエンテーション 工場案内 ・就業体験 EV 電源部 2月28日(火) ・会議傍聴 ・品質検査(受け入れ) 3月1日(水) ・巻き線コイル 技術補助 3月2日(木) ・資料整理 ・伝票整理 3月3日(金) ・資料作成
学び・気づき (300字程度)	5日間を通し、様々な部署に行き、多くの体験をさせていただいた。二日目の会議はアメリカにある部署との電話会議であった。私は、言葉は理解できなかったものの、世界にも通用する日本の技術の高さに驚いた。TDK だけではなく、日本には世界に誇れる技術が多くあると思った。このような技術が世界でどのように使われているのか興味がわいた。 TDK 庄内では、中国やヨーロッパにも拠点がかり、ドイツやハンガリーでは日本人だけではなく様々な国のひとが活躍している。こうした、海外で働く上で最も重要なことは言葉である。言葉が通じなければ、コミュニケーションをとることは難しい。大学卒業になる自分には、このような能力も社会からは当たり前のように求められる。私はまだ、社会の求める能力に達していない。これからの学びで、より深く海外の言葉や文化について学んでいきたいと思った。
今後に向けた 抱負 (200字程度)	初めて製造業にインターンシップにきたが、製造業の中でも数多くの分野があることを知った。自分がやらせていただいた作業も業務のなかのほんの一部だと感じた。インターンシップに行かなければ見えなかった部分も多くあり、経験させていただくことで、製造業という仕事の難しさを知ることができた。今まで身につけることがなかった新しい知識が増え、このような分野も自分には向いているのではないかと思えた。これからの大学生活で、どの道に進むかは分からないが、一つ選択子が増え、幅が広がった。今回の経験を無駄にしないよう、これからも頑張りたい。
インターンシ ップをして気づ いた、実習先の魅 力 (300字)	今回の実習では、特にこまること無く5日間を終えることができた。訪問する前に事前学修をして実習に臨んだが、専門用語などが会議の中で出てくると戸惑う部分もあった。今まで、授業などで習うことのない分野だったので職に就こうとしたら何の知識もないと難しいと思った。 TDK の独創的な製品開発力と高品質なモノづくり力を支えているのは、素材技術/プロセス技術/評価・シミュレーション技術/生産技術/デバイス&モジュール技術という5つのコアテクノロジー(基盤技術)だということがわかった。TDK は蓄積したコアテクノロジーをさらに深化させつつ、15の事業分野で幅広いビジネスをワールドワイドに展開していた。

写真 (1~3点)

